

くすりの適正使用に向け

ポリファーマシーについて学ぶ

令和6年度在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会並びに研修会

はじめに

この研修会は「青森県在宅保健師の会」の会員（以下「在宅保健師」と）と市町村や県の現職保健師が一堂に会して情報共有し、地域における保健活動を推進することを目的として、平成25年度から2次保健医療圏域毎に開催している。

今年度は「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進に向けた取組の一環として「ポリファーマシー（有害事象につながる多剤服用）」をテーマに、青森県薬剤師会の協力のもと開催した。（開催状況は別表のとおり）

講演

「薬の適正使用に向けて

〜ポリファーマシーを考える〜

（各講師の講演内容を集約）

ポリファーマシーとは、多くの薬を服薬することによる相互作用や飲み間違い、飲み忘れ等により正しく薬を飲めなくなること等から引き起こされる有害事象を指し、何種類以上の薬の服用が該当するという定めはないが、5、6種類以上が有害事象の発生に関連していることが多い。

特に、高齢になると身体的・精神的機能の低下とともに複数の慢性疾患に罹り、服用薬数が多くなることから注意が必要である。

る。

また、薬剤による有害事象を新たな疾患や症状と勘違いして次々と薬の処方を探り返すケースもある。

ポリファーマシーの問題点は「有害事象の発生」と「薬剤費の増大」「服薬アドヒアランス（※）の低下」等である。

飲み忘れや自己判断での減薬・休薬等による残薬の金額を日本全体で見ると、年間500億円にもなると言われている。

ポリファーマシー対策を地域で進めるためには、医療・介護関係者だけではなく、自治体や保険者の参加も重要であることから、関係者が一堂に会し意見交換する機会を設けるなど、円滑な連携のもと方策を検討する必要がある。

上十三保健所ブロック



東青地域保健所ブロック



むつ保健所ブロック



弘前保健所ブロック



五所川原保健所ブロック



三八地域保健所ブロック



質疑応答

※患者自身が自分の病気を受け入れて、
医師の指示に従い積極的に薬を用いた
治療を受けること。

講演終了後の質疑応答では在宅保健師
から自身や家族等の薬に関する質問が、
現職保健師からは「高齢者の保健事業と
介護予防の一体的実施事業」の薬剤に関
する取組や訪問ケースの服薬支援に関す
る質問等があり、各地域の薬剤師との繋
がりも生まれ、今後の活動に活かされる
内容となった。

交流会

いつもパワフルな在宅保健師！
研修会に併せて開催した在宅保健師の交
流会は、久しぶりに顔を合わせた会員もお
り話が絶えない様子で、それぞれの近況や
地域での活動の状況について情報交換さ
れ、有意義な時間となった。

令和6年度在宅・現職保健師保健所ブロック別研修会開催状況一覧

管内	開催期日	開催場所	参加者		研修内容
			在宅	現職等	
東青地域	10月8日(火)	ねぶたの家 ワッセ (青森市)	12	11	1. 講演「くすりの適正使用に向けて ～ポリファーマシーを考える～」 講師： 東青地域 青森調剤薬局 坂井 義人 氏 弘 前 磯木薬局 磯木雄之輔 氏 三八地域 なの花薬局五戸店 青柳 伸一 氏 上十三 ひがし調剤薬局 柴崎 崇 氏 む つ アイン薬局東通村店 細川 智弘 氏 五所川原 ひなた薬局 木皮 美賀 氏 2. 質疑応答
弘 前	10月10日(木)	弘前市民会館	13	6	
三八地域	10月16日(水)	YSアリーナ 八戸	18	2	
上十三	10月18日(金)	市民交流プラ ザトワール (十和田市)	15	14	
む つ	10月22日(火)	むつ合同庁舎 旧館	4	4	
五所川原	10月25日(金)	五所川原 市民学習情報 センター	9	10	
参加者合計			71	47	

最後に (参加者のアンケートから)

現職保健師からは「私たちが関わる対象としている住民には、障がいのある方や介護保険を利用している方が多いので、ポリファーマシーや残薬問題は共感できる内容だった。

多職種連携の必要性は日々感じているので、薬剤師との連携についても工夫して介入していきたい」や「今後は訪問等で対象者が6剤以上を服用していたら注意し、必要があれば今回の講義の内容を踏まえて伝えたい」などの感想が聞かれた。

在宅保健師からは「薬剤に関する研修は初めてなので大変興味深かった」や「自分の服薬状況を見直すきっかけになった」「これから薬について不安な時は積極的に薬剤師を頼ろうと思う」などの声が寄せられた。

